

様々な被災に対応できる幅広い通信ツールの拡充を目指し 指示伝達やデータ通信にすぐれたデジタルMCA無線を導入

災害対策基本法の指定公共機関である通信事業者として、全国ではじめてMCA無線をご導入されたKDDI株式会社様。
ご導入に至るまでのお話を、コーポレート統括本部 総務・人事本部 総務部企画グループ マネージャー 佐藤信彦様、
マネージャー 野澤和寛様に伺いました。



野澤 和寛様



佐藤 信彦様

条件の中で、さまざまな通信ツールを調査しましたが、なかなか条件を満たす通信ツールを見つけ出すことができませんでした。

そんな時、お付き合いのある会社様から『MCA無線』のことを聞きました。しかしMCA無線がどのようなものなのか、まったくわかっていなかったため、すぐに移動無線センターさんに連絡を入れて、説明に来ていただきました。そのとき東京と沖縄間のデモ通信を実施いただいたのですが、音声が遅延することなく、音質もとてもクリアであることに驚きました。

導入に至るまでに約1年

MCA無線におけるメリット、デメリットを何度も移動無線センターのご担当者様に伺い、また実際にMCA無線機器をお借りして、拠点間の通信テストにもご協力をいただきました。さらに、すでにMCA無線を導入していた企業様にヒアリングを行うなど、導入を決めるまでに約1年をかけ、MCA無線が本当に災害時に有効活用できるのかについて熟考を重ねました。その間、さまざまな要望に迅速かつ誠実にご対応いただいた移動無線センターのご担当者様には大変感謝しています。

衛星通信とMCA無線の良さを生かす

当社では、通信事業者である強みを活かし、TV・電話会議システムに加え、衛星電話と海外サーバを活用した会議システムを構築しており、多拠点・多人数によるコミュニケーションを可能としています。



【災害対策本部用のMCA無線機】

これにより、災害対策本部と被災地、または活動支援拠点などのコミュニケーションを実現していますが、MCA無線を導入したことにより、現場等への一斉指示なども可能となり、災害時の迅速な情報伝達を一層確実なものにしました。災害発生時の的確な情報伝達は非常に重要であり、それぞれの特性や良さを活かして災害対策の強化を図っています。

MCA無線データ伝送システム

さらに最大の決め手となったのは、MCA無線を利用したデータファイル伝送機能です。たとえば、東京が被災地となった場合、バックアップ拠点となる関西の支社が中心となり、全国の拠点から提供可能な支援物資情報を収集、取りまとめ、データファイルとしてMCA無線で東京の災害対策本部に報告してもらうことができます。データ容量の軽いファイルであれば、簡単な操作で送信できるMCA無線のデータファイル伝送機能は利便性が高く、導入を決める後押しとなりました。

MCA無線の配備状況

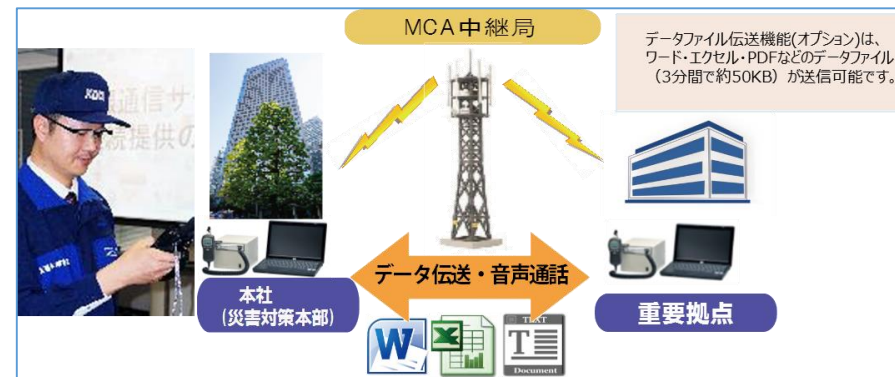
さまざまな検討・検証を行い、全国の重要拠点5カ所に停電時でもバッテリーで作動する半固定型のMCA無線を配備するとともに、機動性を重視したハンディタイプのMCA無線5台を当社の危機管理対策室に配備しました。

24時間365日、通信を守る使命

当社は、災害が発生した場合でもお客様のライフラインとなる通信サービスを途絶えさせないよう通信設備の強化を図るだけでなく、さまざまな被災想定に基づく訓練を通じて、より強固な災害対策体制の構築に取り組んでいます。災害対策訓練では、社長を筆頭に総勢300名を超える参加者が真剣に取り組みながら、現状の問題点、課題を洗い出し、改善を図っていきます。

これまで積み重ねたスキルや現状の対策に満足することなく、常にブラッシュアップを図りながら、24時間365日、通信を守るのがわれわれKDDIの使命と捉え、これからも取り組んでいきたいと考えています。

【MCA無線データ伝送システム概念図】



KDDI株式会社様
auブランドの移動体通信と固定通信の両方を併せ持つ国内唯一の総合通信事業者です。いかなる状況下でも安定した通信サービスを提供するという使命を果たすため、災害・緊急時対策の強化を進められています。

災害対策訓練で浮き彫りとなった課題

当社では、社長をはじめとした役員も参加する全社的な災害対策訓練を毎年2回実施しており、訓練では「想定外」の事象によって事業継続活動に支障が生じないように、さまざまな被災想定を設定しています。こうした訓練を重ねていく中で、すでに導入・活用しているTV会議・電話会議システムや衛星電話を利用した拠点間コミュニケーションツールに加え、以下の利用状況に適した通信ツールはないかという課題が顕在化しました。

- ・ 復旧活動などの指示を複数人一斉に簡易に情報伝達できる仕組みはないか。
- ・ 衛星を捕捉しにくい場所でも使える通信ツールはないか。
- ・ トランシーバーよりも広範囲で使えるものはないか。

これら課題を解決し、一層の通信ツール拡充につなげるための検討を開始しました。

MCA無線を知ったきっかけ

まず新たな通信ツールを探すにあたり、音質がクリアであることと、低コストであることなど、幾つか条件設定を行いました。災害復旧活動は長時間に渡ることから、コミュニケーション上の不具合はストレスとなるため、特に音質にはこだわりました。この厳しい